

フォルマシオン・ミュージカルの1テキストの内容研究

門田 幸久

A study of a Textbook on “Formation musicale”

MONDEN Yukihsa

Abstract

In this report, I studied on the education method of a textbook for “Formation musicale”, a new French education system for solfège. Conventional solfège has been completely renewed in France and the new solfège is called “Formation musicale”. On the volume 2 (for 2nd year course) in all the seven textbooks, I arranged ; (1) The summary of the education contents (of 22 lessons and 3 oral tests and 3 writing tests), (2) The contents of each training exercise (in 22 lessons and 3 oral tests and 3 writing tests), (3) Main contents of practices (of 22 lessons and 3 writing tests). Also, the characteristics of training exercises on the volume 2 were described as a conclusion. In the lessons of this textbook, appropriate musical works are selected from modern and ancient musical works, and preparatory training exercise from various angles are included mainly on the exercise for understandings and expressions for such musical works. After this, I will continue to examine the education contents of the volume 3 to 7 in these textbooks.

Key Word: formation musicale, solfège, reading music scores, interval, scale

[要約]

本稿は、フランスのソルフェージュ教育の新体制、「フォルマシオン・ミュージカル」による1テキストの教育内容について調べた。フランスでは、従来のソルフェージュは一新され、「フォルマシオン・ミュージカル」と名称が改められた。ここでは、全7巻で組まれているテキストの中の第2巻（課程2年目）について、22の課（レッスン）と3つの口述テストと3つの筆記テストの教育内容の概要、22の課と3つの口述テストと3つの筆記テストの中にある各課題の内容、22の課と3つの筆記テストの中にある実習の主な内容を、整理しまとめた。そして、このテキスト第2巻の教育課題の特徴について最後にまとめた。このテキストの各「課（レッスン）」は、古今の音楽的に適格な音楽作品が選ばれ、それらの音楽の理解と表現の獲得に向けた課題を中心に、あらゆる角度からの準備練習課題が組まれていた。今後、このテキストの第3巻から第7巻の教育内容についても、引き続き整理しまとめる予定である。

キーワード：フォルマシオン・ミュージカル、ソルフェージュ、読譜、音程、音階

はじめに

フランスにおけるソルフェージュ教育の歴史、現在のフォルマシオン・ミュージカルの教育内容については、詳細な研究論文がある¹⁾。泉谷千晶著「フランスのフォルマシオン・ミュージカルの変遷と改革 1978年以降のソルフェージュ教育の動向」の中で、従来のソルフェージュからフォルマシオン・ミュージカルへの移行について、次のように述べられている²⁾。「1978年、5月の政令により、従来の基礎科目であるソルフェージュは名称を改められ、『フォルマシオン・ミュージカル』(総合的な音楽形成科目)に一新された。(中略)この改革の要因となった問題については、概ね次のように語られてきている。それまでのソルフェージュではそれぞれの訓練を目的としたカリキュラムの細分化が、その指導法まで分断化の傾向を強める方向に進んでしまったこと、その結果、各種の訓練が高度になればなるほど本来器楽の表現に生かされるべきソルフェージュの学習が、反対に音楽から次第に離れた無味乾燥な特殊訓練で完結してしまう心配が現実に見られるようになってきたことが挙げられている。(中略)ソルフェージュ教育(知識)と器楽教育(表現)の間に広がった溝を回復することを大きな課題とし、また実作品をソルフェージュ課題の中にできる限り取り上げることで、音楽作品の理解と表現をより深め、身につけることを目標とした教授法の改善なのである。その強い願いと意志が『フォルマシオン・ミュージカル=総合的な音楽形成科目』という名称に託されているのである。」また、同論文において、1978年にフランス文化省により公表されたフォルマシオン・ミュージカルの『学習要項』についての全容と解題が書かれている³⁾。

現在、フランスではフォルマシオン・ミュージカルのテキストは多種出版されている。本稿は、全7巻で組まれているLabrousse, Marguerite著 *Cours de FORMATION MUSICALE* (フォルマシオン・ミュージカル講義)⁴⁾の第2巻(課程2年目)⁵⁾の教育内容を調べてまとめた。このテキストの「序文」に次のことが書かれている。「学習者が音楽の総合的な視野を得ることを目指しており、フォルマシオン・ミュージカルの課程2年目で必要な知識全体を、習得出来るように書かれています。」

本稿の「3. 各課題の内容」と「4. 各課の終わり、筆記テストの始めにある実習の問題内容」については、各課とテストの教育目標に対して配置、構成された実作品をめぐる、各課題と実習の内容を整理しまとめた。各課題の教育内容、実習内容を別々に整理することは、従来のソルフェージュの教育方法による見方に陥る危険性もあるが、「2. 各課(レッスン)とテストで学習する教育内容の概要」を補うためにまとめた。

1. このテキストにおける教育のための課題について

第2巻は、22の「課(レッスン)」と3回の「口述テスト」「筆記テスト」で組まれている。全ての課と口述テスト、筆記テストには、実作品を中心に配置、構成された3~11種類の勉強のための課題がある。また、全ての課の終わりにはそれぞれ2~8問の実習問題、3つの筆記テストにはそれぞれ4~8問の実習問題がある。課は2~6ページ、口述テストと筆記テス

トは各2ページの分量となっている。全ての課と口述テスト、筆記テストの中で勉強する課題は次の23種類〔(14) ロンドーのリズムを作る、は第2巻では設けられていない〕である。(1) から (13) までの課題は、既に第1巻でも学習したもの。(15) から (24) は第2巻で新たに設けられた課題である。

(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (3) リズムの識別 (4) リズムの読譜 (5) イントネーション (6) 識別 (音程の) (7) 歌う読譜 (歌うことによる読譜) (8) 間違い探し (9) 音符の書き取り (10) リズムの書き取り (11) 記憶化とイントネーション (12) 即興 (13) 曲を聴いて問いに答える (15) 伴奏を聴く (16) 1人で歌うパートを聴く (17) 理論 (18) 楽器で音出し (19) (音程を) 歌う練習 (20) リズムのある音の読譜 (21) (メロディの) 記憶 (22) 歌と楽器による読譜 (23) 長調と短調の識別 (24) 4声のリズムアンサンブル

上記の各課題の(1)～(24)の番号は、筆者が整理上付けたもので、順序的な意味などは無い。

このテキストの「序文」の中で、以下について注意が示されている。

- ・「リズムの読譜」：教育的効果に変化をつけるため、様々な方法が示してある(リズム打ち、音符読み、歌唱、演奏、交互に、または独唱(奏)、二重唱(奏)、三重唱(奏)による)。いくつかの課は、伴奏を教師が演奏するか、または生徒が読譜し、リズム打する。
- ・「リズムの記憶」：本を閉じて記憶し、その後楽譜を見るようになっている。「リズムの読譜」の準備段階として役に立つ。
- ・「イントネーション」：「歌う読譜(歌うことによる読譜)」から生まれていて、追求する目的(声のウォーミングアップ、正確さを養う訓練、旋律の記憶、目と耳の相互関係の育成など)に応じた、様々な取り組みを知るきっかけを与える。
- ・「楽器の読譜」：獲得した基礎知識を実現するために、楽器のためのいくつかの編曲が、第2課、第5課、第7課、第13課、第15課、に提示されている(楽器を伴う勉強は、全ての記憶化に向かう)。
- ・「実習(実用的な勉強)」：学習者の自習に役立つよう作成してある(従って、自宅または教室で、一人で行う必要がある)。
- ・「テスト」：このテキスト中の3つのテストは、口述と筆記の勉強を含む。これらのテストは復習またはまとめとする、採点するか否かは、教師に任せられる。
- ・第8課と第14課は、生徒が徐々に慣れるために、声楽曲特有の書法が大事にされる。

2. 各課(レッスン)とテストで学習する教育内容の概要

2.1. 音符、リズム、音楽用語、課題の種類

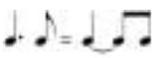
各課(レッスン)と口述テスト、筆記テストで学習する教育内容の概要(音符、リズム、音楽用語、課題の種類)を次の<表1>にまとめた。「音符」「リズム」「音楽用語」に関しては、課とテストが進むにつれて表に書かれた各要素の範囲が増える。「課題の種類」は、表に書かれた順で各課とテストの中に配列されている。

次の<表1>が、各課とテストで学習する音符、リズム、音楽用語、課題の種類の概要で

ある。

<表1> 各課と口述テスト(口テと略記)、筆記テスト(筆テと略記)で学習する音符、リズム、音楽用語⁶⁾、課題の種類

課	音符	リズム	音楽用語	課題の種類
1			隣り合わせの音	(15) 伴奏を聴く(16) 1人で歌うパートを聴く(5) イントネーション(1) 音符の読譜(4) リズムの読譜(7) 歌う読譜
2			八長調、音階の階段(度数)主音、属音、導音、間が離れた音	(1) 音符の読譜(4) リズムの読譜(7) 歌う読譜(17) 理論(6) 識別(5) イントネーション(9) 音符の書き取り(10) リズムの書き取り(7) 歌う読譜(CD1)(18) 楽器で音出し
3			2度と3度、全音と半音	(2) リズムの記憶(3) リズムの識別(4) リズムの読譜(8) 間違い探し(17) 理論(19) 歌う練習(6) 識別(9) 音符の書き取り(1) 音符の読譜(11) 記憶化とイントネーション(7) 歌う読譜(CD2)
4			tr (トリル) cresc. (クレッシェンド)	(13) 曲を聴いて問いに答える(CD3)(1) 音符の読譜(7) 歌う読譜(4) リズムの読譜
5			ト長調、4度音程	(13) 曲を聴いて問いに答える(CD4)(実習)(21) 記憶(17) 理論(12) 即興(1) 音符の読譜(4) リズムの読譜(6) 識別(8) 間違い探し(5) イントネーション(18) 楽器の音出し(7) 歌う読譜(CD4)
口テ 1				(1) 音符の読譜(2) リズムの記憶(4) リズムの読譜(7) 歌う読譜
筆テ 1				(9) 音符の書き取り(6) 識別(8) 間違い探し
6			5度音程	(2) リズムの記憶(17) 理論(4) リズムの読譜(20) リズムのある音の読譜(10) リズムの書き取り(6)(音程の)識別(5) イントネーション(7) 歌う読譜
7				(2)(リズムの)記憶(4) リズムの読譜(8) 間違い探し(1) 音符の読譜(9) 音符の書き取り(5) イントネーション(7)(2声の)歌う読譜
8				(13) 曲を聴いて問いに答える(CD5)(8) 間違い探し(4) リズムの読譜

9			(2)(リズムの)記憶(3)(リズムの)識別(4)リズムの読譜(10)リズムの書き取り(5)イントネーション(17)理論(6)識別(7)歌う読譜(CD6)
10			長3度音程、長3和音 (2)リズムの記憶(13)曲を聴いて問いに答える(CD7)(1)音符の読譜(4)リズムの読譜(17)理論(9)音符の書き取り(7)歌う読譜
口 テ 2			(7)歌う読譜(1)音符の読譜(4)リズムの読譜
筆 テ 2			(9)音符の書き取り(10)リズムの書き取り(6)(音程の)識別(8)間違い探し
11			6度音程 (2)リズムの記憶(3)リズムの識別(8)間違い探し(4)リズムの読譜(17)理論(6)識別(11)記憶化とイントネーション(1)音符の読譜(9)音符の書き取り(7)歌う読譜
12			7度音程、協和音、不協和音 (5)イントネーション(21)記憶(17)理論(6)識別(8)間違い探し(1)音符の読譜(4)リズムの読譜(7)歌う読譜(CD8)
13			オクターヴ (13)曲を聴いて問いに答える(CD9)(21)記憶(17)理論(6)識別(10)リズムの書き取り(9)音符の書き取り(4)リズムの読譜(22)歌と楽器による読譜
14			へ長調 (5)イントネーション(9)音符の書き取り(12)即興(8)間違い探し(1)音符の読譜(4)リズムの読譜(11)記憶化とイントネーション(7)歌う読譜(CD10)
15			二長調 (13)曲を聴いて問いに答える(CD11)(12)即興(1)音符の読譜(4)(ロンドーの)リズムの読譜(9)音符の書き取り(22)歌と楽器による読譜(CD11)
16			2元的 ⁷⁾ (単純拍子)と3元的 ⁷⁾ (複合拍子) (13)曲を聴いて問いに答える(CD12, 13)(1)音符の読譜(4)リズムの読譜(7)歌う読譜
17			2元的(単純拍子)と3元的(複合拍子)(続き) (2)リズムの記憶(12)即興(9)音符の書き取り(8)間違い探し(1)音符の読譜(4)リズムの読譜(7)歌う読譜(CD14)
口 テ 3			(7)歌う読譜(4)リズムの読譜(1)音符の読譜

筆 テ 3				(6) 識別 (9) 書き取り (10) リズムの書き取り
18			二長調、二短調、短3度音程、短3和音	(13) 曲を聴いて問いに答える (CD15) (12) 即興 (1) 音符の読譜 (CD15) (4) リズムの読譜 (CD15) (7) 歌う読譜 (CD15) (9) 音符の書き取り (17) 理論
19			長調、短調	(23) 長調、短調の識別 (1) 音符の読譜 (4) リズムの読譜 (9) 音符の書き取り (伴奏付) (8) 間違い探し (5) イントネーション (7) 歌う読譜 (CD16)
20			イ短調	(13) 曲を聴いて問いに答える (12) 即興 (6) 識別 (7) 歌う読譜 (8) 間違い探し (1) 音符の読譜 (4) リズムの読譜
21				(3) リズムの識別 (9) 音符の書き取り (24) 4声のリズムアンサンブル (7) 歌う読譜 (CD17)
22			ホ短調	(4) リズムの読譜 (17) 理論 (12) 即興 (9) 音符の書き取り (7) 歌う読譜 (CD18)

2. 2. 各課とテストで使われる実作品

各課とテストで使われる実作品を <表 2> にまとめた。

<表2> 各課と口述テスト、筆記テストで使われる実作品

課	曲名<作曲者または編曲者名>
1	スロヴァキアの小さなダンス<A. Caplet > (実習)
2	メヌエット<Mozart>、「メヌエット・ボワトゥーの情景」「ボワトゥーのオーボエのメヌエット」「歌うメヌエット(コメディバレー「中産階級の紳士」より)(付属CD1)(実習)」<J.-B. Lully >
3	「アレグロ」K3 <Mozart>、「エコセーズ」「五月の歌Op.52 no4 (付属CD2)(実習)」<Beethoven >
4	おもちゃの交響曲第2楽章メヌエット(1~30小節)(付属CD3)(実習)<L. MozartまたはHaydn >
5	「めん鳥(子供の民謡)」「子守歌」「少女、私は君たちと行く(民謡)(付属CD4)(実習)」<Brahms >
	【口述テスト1】「トリオ」「歌曲」<Haydn >
	【筆記テスト1】「メヌエット」(実習)2曲「ディヴェルティメント」<Haydn >
6	ポピュラーなシャンソン、シャンソン「小さな水夫だった」、「ブロンドの人」<C. Czerny>、「ジーク」(実習)<Haendel >
7	シャンソン、「小さなエチュード」Op.68 no14 <Schumann>、「感謝」<F. Couperin>、「刈り入れをする人の歌」Op.68 no18 (実習)<Schumann >
8	「リングとエスカルゴ」<Milhaud>(付属CD5)(実習)
9	シャンソン「月曜日の朝」、「ひばり」、黒人霊歌(2曲)(付属CD6)(実習)
10	「アレグロ」<L. Mozart>、「アリエッタ」「アイネ・クライネ・ナハトムジークKV 525第1楽章(1~18小節)(付属CD7)(実習)」<Mozart >
	【口述テスト2】「羊飼いの少女」「アタラント(第12オールドル)」<F. Couperin >
	【筆記テスト2】行進曲「有力者と審査員」「ディアンヌの組曲のファンファーレ(第2オールドル)」<F. Couperin >
11	「グゼノフォン」「メヌエット」(実習)<C. P. E. Bach >
12	「メヌエット」「スアブのダンス」(実習)<J. P. Kirnberger >、「軍隊行進曲」「ピアノ四重奏Op.47第3楽章(ピアノとメロディ)(付属CD8)」<Schumann >
13	「オーベルニュの子守歌」、「エコセーズ第1番、第2番」「ドイツのダンス」「子守歌(付属CD9)(実習)」<Schubert >
14	「メヌエットKV 1」「ディヴェルティメントK235(1~20小節)」「春の郷愁K596(付属CD10)(実習)」<Mozart >
15	「メヌエット」「ダンス」「ロンドーのミュゼット(付属CD11)(実習)」<Rameau >
16	「小組曲」より「小舟にて(1~16小節)(付属CD12)(実習)」、「バレー(1~9小節)(付属CD13)(実習)」<Debussy作曲、H. Büsser編曲 >
17	「パーシー・リードの死」(イギリスの歌)、「ファンファーレ・メヌエット」<W. Duncombe>、「プレスト」<T. Arne>、「イギリスの民衆のダンス」、「アイルランドの歌」(付属CD14)
	【口述テスト3】「水と涙」Op.32 no7 <Dvořák>、「メヌエット」「田舎のダンス(実習)」<Beethoven >
	【筆記テスト3】「田舎風のダンス(実習)」、「テーマ」「レジェ(軽く)」<Beethoven>、「アレグレット」<Dvořák >
18	「アルルの女」第2組曲より「ファランドール」第1番(1~9小節)(付属CD15)(実習)「ファランドール」第2番(1~12小節)(実習)「ナディールのロマンス」<Bizet >
19	「中産階級の紳士」「音楽の対話：音楽家」「メヌエット」「中産階級の紳士(ジャンヌトンのシャンソン)(付属CD16)(実習)」<J.-B. Lully >
20	「メヌエット(実習)」「ボンウィカの歌」「組曲第4番」より「プレリユード」「サラバンド」<Purcell >
21	「歌曲」「ナイチンゲール(子供の民謡)(付属CD17)(実習)」<Brahms >
22	「私は天国への階段を造る」「誰かが私を愛す」「スワニー(付属CD18)」<Gershwin>、「歌曲」<Schubert >

3. 各課題の内容

3. 1 .(1) 音符の読譜

課とテストが進むに連れて、音（音高）の範囲が増える（2. の〈表1〉を参照）。それ以外については以下の要素がある。

譜表：課によって、高音部譜表、低音部譜表、大譜表を使用。

音符と休符：課によって、全音符、2分音符、4分音符、8分音符、16分音符、32分音符、付点2分音符、付点4分音符、付点8分音符、8分3連音符と4分休符、8分休符、16分休符で書かれている。

強弱記号：課によって、フォルテ記号、メゾフォルテ記号、ピアノ記号が付く。

その他：ほとんどの課とテストにフレーズ・マークが付いている。課によって、2声部（横に対して、縦に重なる音符の上からと下からの読譜）と和音（縦に重なる音符の上からと下からの読譜）がある。第11課では6度音程、第14課ではヘ長調による課題。

課と口述テストに、次の実作品が使われている。

第7課：「小さなエチュード」Op.68 no14 < Schumann >（大譜表、6/8拍子、ト長調）

第10課：「アイネ・クライネ・ナハトムジーク KV 525 第1楽章（1～18小節）」< Mozart > オケストラスコアの第1ヴァイオリンのパートの横と縦（4/4拍子、ト長調）

口述テスト2：「アタラント（第12オールドル）」< F. Couperin >（大譜表、2/4拍子、ホ短調）

第12課：「軍隊行進曲」< Schumann >（大譜表、2/4拍子、ト長調、横 縦の読譜）

第15課：「メヌエット」< Rameau >（大譜表、3/4拍子、ハ長調、横 縦の読譜）

第16課：「小組曲」より「小舟にて（1～16小節）」< Debussy 作曲、H. Büsser 編曲 > オケストラスコアのチェロ2パートの横と縦（6/8拍子）、「小組曲」より「バレエ（1～9小節）」< Debussy 作曲、H. Büsser 編曲 > オケストラスコアのオーボエ2パートの横と縦（2/4拍子）

第17課：「ファンファーレ・メヌエット」< W. Duncombe >（大譜表における単旋律、3/4拍子、ト長調）

口述テスト3：「田舎のダンス」< Beethoven >（高音部譜表+大譜表、3/4拍子、二長調、横 縦の読譜）

第18課：「アルルの女」第2組曲より「ファランドール第1番（1～9小節）」< Bizet > オケストラスコアのチェロ（とコントラバス）のパート（4/4拍子、二短調）

第19課：「中産階級の紳士」< J.-B. Lully >（大譜表、3/4拍子、二短調、低音部譜表の横の読譜 高音部譜表の縦の読譜 2つの譜表の縦の読譜）

第20課：「組曲第4番 プレリユード・サラバンド」< Purcell >（大譜表、4/4拍子、イ短調）

3. 2 .(2) リズムの記憶

リズムについては、課とテストが進むに連れて、音符と休符の種類が増える（2. の〈表1〉を参照）。

第3課：アウフタトで始まり（小節線は記されている）拍子記号は記されていないリズム

譜。

口述テスト1：小節線と拍子記号は記されていないリズム譜。フォルテ記号、メゾフォルテ記号、ピアノ記号、クレッシェンド記号がある。

第6課、第11課、第17課：小節線と拍子記号は記されていないリズム譜。

第7課：歌詞付のシャンソン（高音部譜表、6/8拍子、ト長調）にリズム、小節線を書く。

第9課：歌詞付の2小節の高音部譜表のメロディを、歌詞を付けて歌う 歌詞ではなくラララで歌う リズムだけで（歌詞を）話す

第10課：高音部譜表の同じ音による2つのメロディ（2/4拍子、アウトタトで始まる3小節、歌詞付と歌詞無し、付点4分音符と4分音符+8分休符、ト長調）

3.3.(3)リズムの識別

第1課：「(2)リズムの記憶」で覚えた4種類のリズムの中のどのフレーズを奏したか答える。

第9課：シャンソン「月曜日の朝」を聴いて、「(2)リズムの記憶」で覚えたリズムを数え、読む。

第21課：3/8拍子のリズム譜（2小節）6種類の中のどれを奏したか答える。

3.4.(4)リズムの読譜

第14課、第21課以外の全ての課と口述テストに、次のリズム（リズム譜）と旋律（高音部譜表）がある。1パート～3パートのリズム 2パートのリズムによるカノン 単旋律（高音部譜表） 単旋律（高音部譜表）と1パートのリズム

ほとんどの課題に、速度標示、強弱記号が付いている。旋律のパートは、各課とテストの「(1)音符の読譜」の音の範囲で出来ている。また、リズムは、課とテストが進むに連れて、音符と休符の種類が増える（2.の<表1>を参照）

その他、以下の課題もある。

口述テスト2：6/8拍子のリズム譜を読み、抜けた小節を即興する。

第11課：与えられた歌詞に、与えられたリズムで、はやし歌を作る。

第15課：与えられた6/8拍子のリフレインと、5種類のクプレを使ってロンドーのリズムを作り、読譜する。

実作品による課題

第2課：「メヌエット・ポワトゥーの情景」< J.-B. Lully > 高音部譜表のメロディ（3/4拍子、八長調）メヌエット< Mozart > 高音部譜表のメロディ（3/4拍子、八長調）+リズム譜

第3課：「アレグロ」K3 < Mozart > 大譜表（2/4拍子、八長調）

第4課：おもちゃの交響曲第2楽章メヌエット（1～30小節）< L. MozartまたはHaydn > オーケストラスコア（3/4拍子、八長調）

第5課：「めん鳥（子供の民謡）」< Brahms > 大譜表（2/4拍子、ト長調）

口述テスト1：「トリオ」< Haydn > 大譜表（2/4拍子、イ短調、高音部譜表の音符を読んで

低音部譜表のリズムを叩く)

第6課：ポピュラーなシャンソン高音部譜表のメロディ(6/8拍子)

第9課：シャンソン「ひばり」高音部譜表のメロディ(4/4拍子、ト長調)

第10課：「アレグロ」<L. Mozart>高音部譜表のメロディ(4/4拍子、ト長調)、「アイネ・クライネ・ナハトムジークKV 525第1楽章(1~18小節)(付属CD7)」<Mozart>オーケストラスコアのチェロ(とコントラバス)のパート(4/4拍子、ト長調)

第12課：「軍隊行進曲」<Schumann>大譜表(2/4拍子、ト長調)

第13課：「ドイツのダンス」<Schubert>高音部譜表のメロディ(3/4拍子、ト長調)+リズム譜、「エコセーズ第1番」<Schubert>大譜表(2/4拍子、ハ長調)

第16課：「小組曲」より「小舟にて(1~16小節)」<Debussy作曲、H. Büsser編曲>オーケストラスコアのフルートパート(6/8拍子)、「小組曲」より「パレー(1~9小節)」<Debussy作曲、H. Büsser編曲>オーケストラスコアの第1ヴァイオリンパート(2/4拍子)

第17課：「プレスト」<T. Arne>大譜表(6/8拍子、ト長調、2声)、「イギリスの民衆のダンス」高音部譜表のメロディ(4/4拍子、ヘ長調)+リズム譜

口述テスト3：「メヌエット」<Beethoven>大譜表(3/4拍子、ト長調)

第18課：「アルルの女」第2組曲より「ファランドール第1番(1~9小節)」<Bizet>オーケストラスコアのチェロ(とコントラバス)のパート(4/4拍子、ニ短調)

第20課：「組曲第4番」より「サラバンド」<Purcell>大譜表(3/4拍子、イ短調)

第22課：「私は天国への階段を造る」<Gershwin>高音部譜表のメロディ(4/4拍子)+リズム譜

3.5.(5) イントネーション

全て高音部譜表の音、またはフレーズの課題(調号が書かれている場合もある)である。それぞれのフレーズは、同じ課の「(7)歌う読譜」に含まれるフレーズを、ほぼピックアップしたものである。八調、ト調、ヘ調の各長音階を歌う練習も第14課にある。

3.6.(6) 識別(音程の)

次の課題がある。隣り合わせの音と間が離れた音の識別(第2課、第13課、筆記テスト3) 2度、3度音程の識別(第3課) 4度上昇か下降の識別(第3課) 2度~8度音程の何度上昇または下降したか指摘する(第5課、筆記テスト1、第6課、第9課、筆記テスト2、第11課、第12課、第13課、筆記テスト3) 協和音程か不協和音程の識別(第13課、筆記テスト3) 短3度、長3度音程の識別(第20課)

3.7.(7) 歌う読譜(歌うことによる読譜)

第8課、第13課、第15課以外(ただし、第13課、第15課は「歌う読譜」と「楽器の読譜」の両方の学習)の課と口述テストにあり、全て実作品が用いられている。各課とテストで学習する拍子、リズム、音符(2.の<表1>を参照)によるメロディの課題。ほとんどの課

題に、速度表示、強弱記号、フレーズ・マーク、スラー、スタッカートがある。以下のメロディは高音部譜表、伴奏は大譜表である。

第1課：伴奏付きメロディ（「スロヴァキアの小さなダンス」＜A. Caplet＞2/4拍子）

第2課：メロディ（「メヌエット・ポワトゥーの情景」＜J.-B. Lully＞八長調、3/4拍子）、メロディ+リズム譜（メヌエット＜Mozart＞八長調、3/4拍子）伴奏付きメロディ（コメディバレー「中産階級の紳士」より「歌うメヌエット」＜J.-B. Lully＞八長調、3/4拍子）

第3課：伴奏付きメロディ（「五月の歌Op.52 no4」＜Beethoven＞八長調、2/4拍子）

第4課：オーケストラスコアの第1ヴァイオリンパート（おもちゃの交響曲第2楽章メヌエット〔1～30小節〕＜L. MozartまたはHaydn＞八長調、3/4拍子）

第5課：伴奏付メロディ（「少女、私は君たちと行く〔民謡〕」＜Brahms＞ト長調、4/4拍子）

口述テスト1：伴奏付きメロディ（「歌曲」＜Haydn＞ト長調、3/4拍子）

第6課：大譜表（「ジーク」＜Haendel＞ト長調、6/8拍子）

第7課：大譜表（「刈り入れをする人の歌」Op.68 no18＜Schumann＞八長調、6/8拍子）

第9課：伴奏付きメロディ（黒人霊歌、ト長調、4/4拍子）

第10課：大譜表（「アイネ・クライネ・ナハトムジークKV 525第1楽章〔1～18小節〕」＜Mozart＞ト長調、4/4拍子）

口述テスト2：ピアノ伴奏付き2声（高音部譜表、低音部譜表）のメロディ（「羊飼いの少女」＜F. Couperin＞ト長調、6/8拍子）

第11課：大譜表（「メヌエット」＜C. P. E. Bach＞八長調、3/4拍子）

第12課：伴奏付きメロディ（「ピアノ四重奏Op.47第3楽章」＜Schumann＞八長調、3/4拍子）

第14課：伴奏付きメロディ（「春の郷愁K596」＜Mozart＞ヘ長調、6/8拍子）

第16課：オーケストラスコアのフルートパート（「小組曲」より「小舟にて〔1～16小節〕」＜Debussy作曲 H. Büsser編曲＞6/8拍子）、オーケストラスコアの第1ヴァイオリンパート（「小組曲」より「バレー〔1～9小節〕」＜Debussy作曲、H. Büsser編曲＞2/4拍子）

第17課：伴奏付きメロディ（「アイルランドの歌」二長調、4/4拍子）

口述テスト3：伴奏付きメロディ（「水と涙」Op.32 no7＜Dvořák＞二長調、4/4拍子）

第18課：オーケストラスコアの第1ヴァイオリンパート（及び伴奏付きメロディ）（「アルルの女」第2組曲より「ファランドール第1番〔1～9小節〕」＜Bizet＞二短調、4/4拍子）、オーケストラスコア（及び伴奏付きメロディ）（「アルルの女」第2組曲より「ファランドール第2番〔1～12小節〕」＜Bizet＞二長調、2/4拍子）

第19課：伴奏付きメロディ（「中産階級の紳士」＜J.-B. Lully＞二短調、3/4拍子）

第20課：大譜表（「メヌエット」＜Purcell＞イ短調、3/4拍子）

第21課：伴奏付きメロディ（「ナイチンゲール〔子供の民謡〕」＜Brahms＞ト長調、3/8拍子）

第22課：伴奏付きメロディ（「スワニー」＜Gershwin＞4/4拍子）

3.8.(8) 間違い探し

各課とテストで学習した拍子、リズム、音符（2.の<表1>を参照）による次の課題がある。

2/4拍子（第3課）、6/8拍子（第7課）、3/4拍子（第11課）のリズムを聴いて、リズム譜の間違いを探す。

高音部譜表のメロディ（6/8拍子、八長調）間違いを探す（第8課）。

2度、7度音程の上昇、下降を聴いて、間違いを指摘する（第12課）。

実作品を聴いて、間違いを探す。

第5課：高音部譜表のメロディ（「子守歌」< Brahms > 2/4拍子、ト長調）

筆記テスト1：大譜表（「ディヴェルティメント」< Haydn > 2/4拍子、ト長調）

筆記テスト2：大譜表（「ディアンヌの組曲のファンファーレ（第2オールドル）」< F. Couperin > 6/8拍子、八長調）

第12課：大譜表（「メヌエット」< J. P. Kirnberger > 3/4拍子、八長調）

第14課：大譜表（「メヌエットKV1」< Mozart > 3/4拍子、ヘ長調）

第17課：高音部譜表のメロディ（一部抜けた箇所の手書き取りもある）+ 伴奏（「パーシー・リードの死」〔イギリスの歌〕4/4拍子、二長調）

第19課：大譜表（「メヌエット」< J.-B. Lully > 3/4拍子、二長調）、二長調か二短調か答える。

第20課：大譜表（「ボンウィカの歌」< Purcell > 3/4拍子、イ短調）

3.9.(9) 音符の手書き取り

第2課以外は、全て実作品の手書き取りである。

高音部譜表のメロディの抜けた箇所の手書き取り（第17課、第18課、第21課、第22課は大譜表の伴奏付）

第2課：3/4拍子、八長調、リズムは与えてある。

第14課：始まりの音、4/4拍子、シャンソンの歌詞が与えられている。

第17課：「パーシー・リードの死」（イギリスの歌）4/4拍子、二長調

第18課：「ナディルのロマンス」< Bizet >、6/8拍子、ホ短調、リズムは与えてある。

第21課：「歌曲」< Brahms >、3/8拍子、ト長調、リズムは与えてある。

第22課：「誰かが私を愛す」< Gershwin > 4/4拍子、ホ短調

大譜表のメロディ（高音部譜表）の抜けた箇所の手書き取り。

第3課：エコセーズ< Beethoven > 2/4拍子、八長調

筆記テスト1：メヌエット< Haydn > 3/4拍子、ト長調、音またはリズムが与えてある。

第7課：「感謝」< F. Couperin > 6/8拍子、八長調

第10課：「アリエッタ」< Mozart > 4/4拍子、ト長調

筆記テスト2：行進曲「有力者と審査員」< F. Couperin >、4/4拍子、八長調

第11課：「グゼノフォン」＜C. P. E. Bach＞2/4拍子、八長調

第13課：エコセーズ第2番＜Schubert＞2/4拍子、ト長調

第15課：「ダンス」＜Rameau＞3/4拍子、調号は与えてある。

筆記テスト3：「テーマ」＜Beethoven＞、4/4拍子、調号は与えてある。

第19課：「音楽の対話：音楽家」＜J.-B. Lully＞3/4拍子、二短調

3.10.(10) リズムの書き取り

学習した拍子、リズム（2.の＜表1＞を参照）による課題。筆記テスト2以外の課と筆記テストは全て実作品の書き取りで、高音部譜表の拍子と音だけ与えてあり、リズムと小節線を書く。

第2課：「メヌエット・ポワトゥーの情景」＜J.-B. Lully＞3/4拍子、八長調

第6課：シャンソン「小さな水夫だった」6/8拍子、イ短調

第9課：黒人霊歌、4/4拍子、ト長調（大譜表の伴奏付）

筆記テスト2：6/8拍子、2小節のリズム譜

第13課：「オーベルニュの子守歌」4/4拍子、歌詞が与えてある（大譜表、コード伴奏付）。

筆記テスト3：「アレグレット」＜Dvořák＞2/4拍子、ヘ長調（調性も答える）、「レジェ（軽く）」＜Beethoven＞6/8拍子、ト長調（調性も答える）

3.11.(11) 記憶化とイントネーション

全て高音部譜表で、同じ課の「(7) 歌う読譜」に含まれるフレーズを、ピックアップしたものによっている（第3課、第11課、第14課のみ）。

3.12.(12) 即興

学習した拍子、リズム、音（2.の＜表1＞を参照）による課題（高音部譜表で）。

第5課：4/4拍子、ト長調、2小節 3/4拍子、ト長調、2小節のフレーズを歌い、終わらせる。

第14課：与えられた2小節の問いのフレーズ（6/8拍子、ヘ長調、アウフタクトで始まる）に答えを即興し、楽譜を書く。

第15課：与えられた2小節のフレーズ（4/4拍子、二長調）に続けてメロディを即興し、終わらせる。

第17課：与えられた2小節の問い（6/8拍子、二長調 2/4拍子、ト長調）を記憶して、答えを即興し、楽譜を書き、調性を答える。

第18課：二長調 二短調のメロディを即興し、楽譜を書く。

第20課：ロンドー（形式）による子守歌の、与えられた2小節のリフレイン（6/8拍子、イ短調）に対して、第1クプレと第2クプレを即興して、完成する（ただし、第2クプレで曲は終わらせる）。

第22課：与えられた「歌曲」の伴奏＜Schubert＞（大譜表、2/4拍子、ホ短調）を何度か聴い

て、その(コード)伴奏に合わせた、声または楽器のためのメロディを即興する。

3.13.(13)曲を聴いて(また歌い、演奏し)問いに答える

第4課:おもちゃの交響曲第2楽章メヌエット<L. MozartまたはHaydn>(オーケストラスコア1~30小節、2/4拍子、ハ長調)(付属CD3)

聴こえた楽器を挙げる。

オーケストラの中でどの楽器が珍しいと気づいたか答える。

2回聴いた後、拍を数え、知っているリズムを見つけて書く。

強弱を指摘する。

この曲は何拍子が答える。どんなダンスを思い出すか。

与えられた高音部譜表の音に、リズム、拍子記号、小節線を書き入れて、楽譜を完成させる(この交響曲の1~4小節のテーマ)。

第8課:「リンゴとエスカルゴ」<Milhaud>(高音部譜表のメロディ+大譜表、6/8拍子)(付属CD5)

与えられたシャルル・ヴィドラックの詩の始まりを、6/8拍子のリズムで高い声で読み、それぞれの詩句の上の線上にリズムを書く。

ミヨーの曲と比べて聴く。ミヨーの曲の始まりの音とリズムを書く。

第10課:「アイネ・クライネ・ナハトムジークKV 525第1楽章」<Mozart>(オーケストラスコア1~18小節、4/4拍子、ト長調)(付属CD7)

この曲で使われるリズムを、与えられた6種類の中から選ぶ。

始まりの4小節を記憶して、音階を五線上に書く。

聴こえた楽器を、与えられた6種類の中から選ぶ。

この曲の速度用語を、与えられた4種類の中から選ぶ。

この曲の強弱記号を、与えられた4種類の中から選ぶ。

異なる部分はいくつ聴こえたか。

第13課:「子守歌」<Schubert>(高音部譜表のメロディ+大譜表、4/4拍子、ト長調)(付属CD9)

テンポと強弱を答える。

この曲の特徴を答える。

この曲の役割を答える。

第15課:「ロンドーのミュゼット」<Rameau>(大譜表における4パート、3/4拍子、二長調)(付属CD11)

高音のパート、低音のパートはそれぞれ何で演奏しているか。

1~4小節を記憶して、高音部譜表に、与えられた音からメロディを書く。

この曲の音階を歌い、五線上に書く。調名、調号を答える。

第16課:「小組曲」より「小舟にて」<Debussy作曲 H. Büsser編曲>(オーケストラスコア1~16小節、6/8拍子)(付属CD12)、「小組曲」より「パレー」<Debussy作曲 H. Büsser編

曲 > (オーケストラスコア 1 ~ 9 小節、2/4 拍子) (付属 CD13)

2つの曲を聴き、拍動を比較する(拍が2分割されるか3分割されるか)、拍子を答える。

分かった主要なリズムを書く。

各曲の始まりのメロディを、与えられた高音部譜表上(2曲とも調号、音を書いてある、「バレー」は1小節が全て書いてある)にリズムを付けて完成させる。

これらの曲の演奏の強弱を、与えられた5種類の強弱記号から選ぶ。

これらの曲のテンポを指摘する。

分かった楽器名を答える。テーマを演奏する楽器にアンダーラインを引く。

各曲のリズム、テンポ、特徴から、それぞれの題名を提示し、ドビュッシーの題名と比較する。

第18課: 「アルルの女」第2組曲より「ファランドール」第1番 < Bizet > (オーケストラスコア 1 ~ 9 小節、4/4 拍子、二短調) (付属 CD15)、「アルルの女」第2組曲より「ファランドール」第2番 (オーケストラスコア 1 ~ 12 小節、2/4 拍子、二長調) < Bizet >

パートの数を答える。

テンポを答える。

リズムは2元的(単純拍子)か3元的(単純拍子)か。

分かったリズムの定型表現を書く。

各曲の音階を歌い、五線に書く。2曲の音階が同じかどうか答える。

第20課: 「メヌエット」 < Purcell > (大譜表における3パート、3/4 拍子、イ短調)

1 ~ 8 小節を聴き、主音、次に音階を歌う。その音階と音階の度数、半音の場所、調名を書く。長調と短調の各音階に、半音が幾つあるか答える。

曲全体を聴き、パート数を答える。

拍を見つけ、高音部譜表の音のみ与えられている1 ~ 4 小節のリズムを完成する。

3.14.(15) 伴奏を聴く(第1課のみ)

「スロヴァキアの小さなダンス」 < A. Caplet > (伴奏付きメロディ、2/4 拍子)

拍を答える。曲の終わりまでにおける、拍の機能を答える(第2拍目にアクセント)。作曲者は楽器奏者に何を指示しているか(第2拍目がテヌート)。強弱を指摘する。リズムを書く。アクセントの位置を答える。

3.15.(16) 1人で歌うパートを聴く(第1課のみ)

音のアタックの方法を指摘する。与えられた高音部譜表のメロディの1 ~ 2 小節を完成し、楽譜の中に異なる記号を付ける。

3.16.(17) 理論

第2課(と第5課): 長音階、八長調(ト長調)の音階の階段(度数)と半音の位置、主音

() 属音 () 導音 () の位置

第18課 (と第22課) : 二短調 (ホ短調、ト長調の平行調) の (和声) 短音階の階段 (度数) と半音の位置、主音 () 属音 () 導音 () の位置

第3課 : 隣り合わせの音 (2度音程の全音と半音) 間が離れた音 (3度、4度、5度音程)

音程と和音 : 4度音程 (第5課) 5度音程 (第6課) 長2度音程 (全音) と短2度音程 (半音) (第9課) 長3度音程と長3和音 (第10課) 6度音程 (第11課) 7度音程 (第12課) オクターブの音程 (第13課) 短3度音程と短3和音 (第18課)

第6課 : 2/4拍子、3/4拍子、4/4拍子、6/8拍子、(単純拍子と複合拍子)

3 . 17 . (18) 楽器で音出し (楽器の指示はない、第2課、第5課のみ)

第2課 : 「歌うメヌエット (コメディバレー「中産階級の紳士」より)」 < J.-B. Lully > (高音部譜表 + 高音部譜表 + 低音部譜表の3パート、3/4拍子、ハ長調)

第5課 : 「少女、私は君たちと行く (民謡)」 < Brahms > (大譜表における2パート、4/4拍子、ト長調)

3 . 18 . (19) (音程を) 歌う練習 (第3課のみ)

与えられた音から2度、3度上と下の音を歌う練習。

3 . 19 . (20) リズムのある音の読譜 (第6課のみ)

「ブロンドの人」 < C. Czerny > (大譜表、6/8拍子、ト長調)

3 . 20 . (21) (メロディの) 記憶 (第5課、第12課、第13課のみ)

第5課 : 「少女、私は君たちと行く (民謡)」 < Brahms > の1 ~ 4小節のメロディを記憶して、楽譜を書く (高音部譜表、4/4拍子、ト長調)。

第12課 : 歌詞付の8小節のメロディの記憶 (高音部譜表、2/4拍子、ト長調)。

第13課 : 「子守歌」 < Schubert > の1 ~ 8小節のメロディを記憶して、楽譜を書く (高音部譜表、4/4拍子、ト長調)。

3 . 21 . (22) 歌と楽器による読譜 (楽器の指示はない、第13課、第15課のみ)

第13課 : 「子守歌」 < Schubert > (高音部譜表のメロディ + 大譜表、4/4拍子、ト長調)

第15課 : 「ロンドーのミュゼット」 < Rameau > (大譜表における4パート、3/4拍子、二長調)

3 . 22 . (23) 長調、短調の識別 (第19課のみ)

ポピュラーなシャンソン (8種類の歌詞の与えられた) を聴いて歌い、長調、短調を識別する。

3.23.(24)4声のリズムアンサンブル(第21課のみ)

第1パート:「シュ」または「タン」の声で、第2パート:両手で打つ、第3パート:テーブルを叩く、第4パート:膝を叩く(交互に)

4.全ての課の終わりと筆記テストの始めにある、実習の問題内容

第17課を除く全ての課と、筆記テスト1、筆記テスト3にある実習は、全て実作品(「<表2>各課と口述テスト、筆記テストで使われる実作品」参照)を聴き、または歌い、楽譜を通して、各種設問に答える。課によっては、「(13)曲を聴いて問いに答える」の実作品と同じ曲への異なる設問もある。主な設問を以下に挙げる。

フレーズ・マークを付け、その数を答える。曲の中の、異なった、または同じ部分を指摘する。クプレの数を答える。曲に歌詞をつける。曲を聴き、オーケストラの(楽器の)絵に、演奏した、またはしなかった楽器を指摘する。オーケストラの楽器で、最高音、最低音を演奏する楽器を答える。曲を聴き、打楽器名を答える。2つの譜表を使用する楽器を、オーケストラスコアを見て答える。また、そのスコアには無い楽器も答える。ピアノ伴奏版で歌ったメロディを演奏する楽器を、オーケストラスコアを見て答える。音楽理論(音程、半音、全音、音階、調性、主音、属音、導音、長調、短調、長3和音、短3和音)と、演奏のための音楽用語、記号に関する設問。リュリとモーツァルトの例を基に、メヌエットを作曲する。

直接実作品に関わらない設問を次に挙げる。

与えられたリズム譜に対する、第2パートのリズム譜を作り書く。与えられた高音部譜表のメロディの始まりを歌い、続きを即興し、楽譜に書く。与えられたはやし歌の言葉に、与えられたリズムに続けてリズムを完成させる。7度音程を含むメロディを作り、高音部譜表に書く。ト長調の子守歌を作曲して高音部譜表に書き、演奏する。低音部譜表を演奏出来る楽器を答える。イ短調の短いメロディを、歌うか楽器で即興し、高音部譜表に書く。与えられた高音部譜表の「問い」のフレーズを歌い、「答え」を作曲する。横(7種類の音楽用語のための説明)と縦(6種類の音楽用語のための説明)の単語(音楽用語)のクロスワードパズル。

5.まとめ

このテキスト第2巻の各「課(レッスン)」は、それぞれの学習内容に適格な音楽作品を中心に構成され、フォルマシオン・ミュージカルのあらゆる角度から課題が組まれ勉強法を示している。このテキスト第2巻の教育課題、実習問題についての特徴をまとめる。

教育課題は、第2巻では第1巻で学習した13種類に加え、10種類増えた(本稿の第1章参照)。第1巻と同じ13種類の教育課題については、第2巻においてもベースとなっている。全ての課、テストにある課題別の数は、一部の課題[(14)ロンドーのリズムを作る、は無い。(2)リズムの記憶、は少し減る。(9)音符の書き取り(8)間違い探し(12)即興、は少し増

えた。)を除いて大体同じである。

第2巻で新たに加わった(17)理論、を除く各教育課題は、1つか2つの課でしか扱われな
いが、この巻の課題としては次の特徴がある。 実作品のメロディ(8小節分)の記憶 実作
品(2~3パート)の楽器(楽器の指定は無い)による音出し 歌と楽器の伴奏の読譜 歌と
伴奏の演奏表現(スタッカート、アクセント)を聴く 指示された音程の音を歌う メロデ
ィを歌い、長調と短調を識別する

(17)理論、は約半数の課にあり、他の教育課題のための理論的な要素を学ぶ。 音程はオ
クターブ(8度)まで扱うが、長調、短調の音階と合わせて長短2、3度音程、長3和音、短3
和音を学ぶ。 八長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調とニ短調、イ短調、ホ短調の音階の音(
~)と、主音、属音、導音、半音の位置を学習する。 拍子は、単純拍子の2/4拍子3/4拍
子4/4拍子3/8拍子と複合拍子の6/8拍子を学習する。

第2巻は、全ての課とテストのほとんどの教育課題で複数の実作品が使用され(第1巻より
多くの教育課題に使用されている)、理論・知識を、音楽作品を聴き、読譜、演奏を通して学
習する。特に、「(13)曲を聴いて問いに答える」課題と、第17課を除く全ての課と筆記テス
ト1、筆記テスト3にある「実習」は、全て実作品を聴き、読譜し、歌い、演奏し、各種設問
を通して、第1巻より多くの要素を学習し、音楽作品の理解と表現の獲得を目指して組まれ
ていた。

「(13)曲を聴いて問いに答える」課題の主な設問を次に挙げる。

オーケストラの楽器名、パート数を答える。 拍子とリズムを書く。 曲の始めのメロ
ディを書く。 調名を答え、音階を歌い、書く。 テンポを指摘する。 演奏の強弱を指摘
する。 曲の特徴を答える。

引用文献・脚注

1) フランスにおけるソルフェージュ教育の歴史と、フォルマシオン・ミュージカルについての
日本語で読める文献は、次の脚注2)のほかに、次のものがあげられる。

- ・テシュネ、ローラン、「フランスにおけるソルフェージュ」'L'enseignement du Solfège en France, des origines a la révolution de 1789'、関根敏子訳、第18号、昭和音楽大学研究紀要、1998年。
- ・テシュネ、ローラン、「明日のための教育法(1) 19世紀フランスのソルフェージュ」'Pour l'enseignement du Solfège de demain 1'、関根敏子訳、第30集、東京藝術大学音楽学部紀要、2005年。
- ・テシュネ、ローラン、「明日のための教育法(2) 20世紀フランスのソルフェージュ第1部」'Pour l'enseignement du Solfège de demain 2'、関根敏子訳、第31集、東京藝術大学音楽学部紀要、2006年。
- ・テシュネ、ローラン、「明日のための教育法(3) 20世紀フランスのソルフェージュ第2部」'Pour l'enseignement du Solfège de demain 3'、関根敏子訳、第32集、東京藝術大学音楽学部紀要、2007年。

- 2) 泉谷千晶、「フランスのフォルマシオン・ミュージカルの変遷と改革 1978年以降のソルフェージュ教育の動向」、『第25号、青森明の星短期大学紀要』、7～8頁、1999年。
- 3) 泉谷千晶、「フランスのフォルマシオン・ミュージカルの変遷と改革 1978年以降のソルフェージュ教育の動向」、『第25号、青森明の星短期大学紀要』、10～24頁、1999年。
- 4) Labrousse, Marguerite, *Cours de FORMATION MUSICALE 1ère année ~ 7ème année*, Edition Henry Lemoine, Paris, 1993 ~ 1998.
- 5) Labrousse, Marguerite, *Cours de FORMATION MUSICALE 2ème année*, Edition Henry Lemoine, Paris, 1994.
- 6) 脚注5)の文献
- 7) オルスタイン, ジャン=ポール、『ソルフェージュ』‘Le Solfège’、八村美世子訳、白水社、38頁・114頁、1991年。